



校訓「進歩(文)」「健康(武)」「協力(道)」

P T A 総会開催 多数のご参加に感謝



3年生の学級活動の授業



2年生の体育の授業



1年生の英語の授業

4月27日(木)の午後、「平成29年度第1回PTA」が行われました。当日は1年生29名・2年生30名・3年生22名、合わせて81名の保護者の皆さんが参加されました。今回も90%を超える高い出席率であり、由利地区の保護者の皆さんの学校教育に対する意識の高さを改めて強く感じました。

授業参観では1年生が「英語」、2年生が「体育」、3年生が「学級活動」の授業を提示しました。

1年生は現3年生が授業で作った「英字新聞」を辞書を使って読んでみるというものでしたが、未習の単語や文法が沢山入った英文にチャレンジし、かなりの内容を把握することができました。文部科学省指定「英語教育強化地域拠点事業」の成果を伺うことの出来た授業でした。

2年生は体育館で「運動会」に向けて「特訓」を行いました。「長縄」は、本番さながらに気合いを入れ、大きな声を出して跳んでいました。2年生全員がまとまって行動する姿から、1年生の時の運動会の「雪辱」を期した「想い」が伝わる取組が見られました。

3年生は「グループ・エンカウンター」で「バースデイ・リング」を行いました。このゲームは、ゲームタイトルのおり、誕生日順に参加者全員で輪になるゲームですが、言葉を使わずジェスチャーだけでお互いの誕生日を把握しなければなりません。簡単なゲームですが、みんなが参加してみんなでひとつのことを完成させることで、集団への「所属感」が高まる効果があります。単級のために学級編成はありませんが、年度初めそして運動会に向けて意義のある授業でした。

どの学級も子どもたちの表情がよく、互いに声を掛け合いながら取り組む姿を見て、子どもたちは本当によいスタートを着ることができたようで安心しました。



PTA総会の様子

授業参観の後、「PTA総会」はランチルームで行いました。総会では昨年度の会務報告や決算の報告、また今年度の活動計画や予算案などについて話し合いましたが、〇〇PTA会長さんが議長となって議事を進行して頂き、お陰様で無事滞りなく会を終えることができました。

昨年度は「創立50周年記念事業」などもあり、話し合いをする内容も多かったのですが、今年は例年通りということもあって予定時間よりも早く終えることができました。

最後は新旧役員の挨拶でしたが、PTA三役を中心に本年一年間よろしくお願ひします。

開校記念日 由利中学校校歌に思う



昨年度創立50周年を迎えた本校では、5月1日の開校記念日は今年で52回目となりました。昭和41年4月1日に創設された本校の歩みについては、式典や記念誌などで触れる機会がありました。

さて、学校行事や式典などで歌われる本校の校歌は「前郷中学校」の校歌でもありますが、小松耕輔の作曲した校歌としても有名です。

小松耕輔は旧館合村（現在の東由利）出身の作曲家で、県内では由利、矢島、角館、横手、横手城南、雄物川各高校などの校歌の作曲者として知られています。しかし、日本における最初の歌劇『羽衣』を作曲したことや、日本で最

初の「音楽コンクール」を開催したり、音楽の教科書や啓蒙書など多数の著作によってクラシック音楽の普及に貢献したこと、さらには昭和天皇の学習院初等科時代の唱歌指導の担当であったことや、昭和20年代には当時の皇太子、即ち現在の天皇陛下に「音楽」をご進講したことなど、特色ある業績を残した音楽家であったことを知る人はあまり多くないと思います。

小松耕輔は東京音楽学校（現東京芸術大学）本科在学中の21歳の時に歌劇『羽衣』を書き上げますが、出版された楽譜にはあの文豪「森鷗外」による「序文」が付けられています。また、「ふるさとの山の明け暮れ 緑のかどにたちぬれて いつまでも われ待ち給う母は遠しも」という竹久夢二の詩に小松耕輔が曲をつけた「母」という大変有名な曲もあります。この曲は「日本名歌曲百選 詩の分析と解釈」にも取り上げられているものです。

私たちが毎日、普段何気なく歌っている「由利中学校校歌」ですが、「日本の音楽の父」とも呼ぶべき小松耕輔という作曲家の足跡を辿ってみると、あらためてすばらしい校歌であることに気付かされます。50年以上にわたって歌い続けられてきたこの校歌の重さについて子どもたちもしっかりと心に留めておいてほしいものです。